

ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

8月4日に開催された令和8年度第2回総合教育会議について、ご報告します。

1. 教育振興大綱(案)(資料1、資料2)

前回の協議を踏まえ、教育委員会から「市川市教育振興大綱(案)」を提案しました。

(本文)<https://www.city.ichikawa.lg.jp/uploaded/attachment/56660.pdf>

(概要)<https://www.city.ichikawa.lg.jp/uploaded/attachment/56661.pdf>

2. 教育振興大綱具体化パッケージ(素案)(資料3)

上述の教育振興大綱(案)を踏まえ、今回、教育委員会から新たに、「市川市教育振興大綱具体化パッケージ(素案)」を提案しました。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/uploaded/attachment/56662.pdf>

3. 教育委員の主な意見

○ 将来像

- ・「言葉の力」は非常に重要。たぐいまれな日本語の文化、美しい日本語が失われてしまうのではないかと心配している。
- ・「言葉の力」を「多様な表現手段」とすると、発信に重きを置いていると受け取られかねない。「一人ひとりの気持ちや考えを伝える力、理解する力、共感する力」としてはどうか。

○ 基本方針1

- ・子どもたちが「早寝早起き朝ごはん」など基本的な生活習慣を身に付けるためには、親の協力が不可欠。子どもだけでなく、親自身も正しい生活習慣について理解と意識をする必要がある。
- ・国語力が重要であり、「読書活動、図書館の充実」があってからの「英語教育」ではないか。
- ・学校図書館が非常に疲弊している。子どもたちが本当に興味を持って読みたいと思う本を取りそろえることができない。朗読や映像などと兼ね合わせての読書教育もこれからは必要。それらを含めて、読書教育の充実があらゆる面で重要になる。
- ・「市立高等学校の創設」は、小学校から高等学校まで12年間の一貫教育を通すことによって、子どもたちのシビックプライドを醸成し、結果としてその地域で活躍できる人材の育成に繋がるのではないか。

○ 基本方針2

- ・基本方針2の最初に「包摂的な学び」が来るのは嬉しい。多様な人たちが手を取り合って考えていくことの大切さが市川市の教育として前面に出ていることは、非常に強いメッセージではないか。
- ・いじめや不登校は、支援を充実させることよりも、防止、発生しないことに意味がある。安心できる居場所づくりを進める中で、不幸にもいじめが起こり、自ら望まずに不登校状態になっている生徒に支援を充実するメッセージを送ることが、誰一人取り残さないことに繋がる。

○ 基本方針3

- ・「幼保小の連携・幼児教育」は、幼児期の学習をベースとして、小学校側が幼児期の学びを踏まえた教育の展開を図ることを盛り込むべき。
- ・ICT環境、図書館環境など様々な環境を引き続き充実させることで、教師が子どもたちと向き合い、そこに全精力を傾けられる環境の構築を市として支援していくことが、質の高い教育の実現に向けた一番近道ではないか。

(情報)教育振興大綱(案)のパブリックコメントの実施

9月3日に第3回総合教育会議が開催され、田中市長が「市川市教育振興大綱(案)」をまとめました。これを受け、9月5日から10月5日まで、パブリックコメントを実施しています。

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/page/73751.html>